



大空 (たいくう)

「躍進し輝き続ける山形中央高校」

校長 齋藤和哉

「初春の令月にして、気淑く風和らぎ・・・」(万葉集序文)

4月1日に新しい元号が「令和」に決まり、平成から令和に変わる今年度4月8日には始業式や入学式がありました。学校が始まって2週間ほど経ちましたが、学年・学級の運営、対面式や応援歌練習等の生徒会活動、部活動の勧誘・入部、PTAや同窓会関係の諸会議など、年度始めの様々な事業が概ね順調に進んでおります。生徒たちが朝早くから登校し、早朝トレーニングや朝学習に向かっている様子を見ると、本当に元気があって勢いのあるいい学校だなとつくづく感じます。3月末の修了式では、生徒に「自己評価」について話をしました。人は節目節目で自分自身のこれまでを振り返ることが必要で、次のステップを踏む上では極めて大事なことだと伝えました。一方、4月最初の始業式では新しい学年の始まりにあたって、2・3年生に対して2つのお願いをしました。

1つは、自分の目標をもう一度確認してその実現に向け何をすべきか、しっかりと見定めて最後までやり抜くこと。人間は、目標があって初めて行動を起こすことができます。目標なくして、自分の夢を実現することはできない。3年生にとっては勝負を賭ける高校最後の1年になります。学習、進路、部活動等、それぞれにとって大事な1年です。特に部活動では、5月連休明けに地区総体、その1カ月後には県大会、7月に入れば野球部は甲子園予選が始まります。ぜひとも5回目の甲子園に行ってほしい。7月末から8月にかけては、今年のインターハイ「南部九州総体」が始まります。文化部も吹奏楽コンクールや高文祭があります。10月からは冬季競技のシーズンインです。生徒には、「君たちの戦うステージは全国だ」と伝えました。全国に照準を合わせて、毎日着実に努力を積み重ねて最後までやり切ってほしい。そして、今年も日本一が出てくることを期待したい。2年生もまだ1年あるとは思わず頂点を目指してほしい。2学期からは、部活動や生徒会活動で中心的な役割を担います。そのような中で、しっかりと自分の目標を定める。そして、その実現に向け着実に成長して行ってほしい。目標達成に近道はありません。日々の努力が全てです。限られた時間を自分の目標達成のためにどうやり切るか。「自己管理能力」が問われます。野球のために自己管理を徹底したイチロー選手がこんなことを言っています。

- ・努力せずに何かできるような人のことを「天才」と言うのなら、僕はそうじゃない。
- ・努力した結果、何かが出来ようになる人のことを「天才」と言うのであれば、僕はそうだと思う。
- ・人が僕のことを、努力せずに打てるんだと思うなら、それは間違いです。

野球に対する、イチロー選手のひた向きさが伝わってきます。自分の夢の実現のため、目標達成に向けて目の前の課題を一つ一つ克服していくしかないのです。

次に2つ目として、新入生のよき手本になってほしいということを伝えました。今年の入学生は241名ですが、おそらく本校での生活については何もわからない新入生、高校生活に慣れるまでは上級生の行動を見て真似ていくものと思います。新入生がこれから、立派に歩めるかどうかは上級生の姿勢、態度に大きく左右されるということを忘れないでほしい。勉強でも、部活動でも、あるいは挨拶でも、新入生に模範を示すこと。新入生はそれを見て、肌で感じ取りながら、高校生活をスタートし、そして立派な中央高生に成長していくはずです。校訓「友愛 自由 平等 団結」のもとに築かれてきた本校の輝かしい歴史と伝統、「躍進し輝き続ける山形中央高校」の校風は、これまでも先輩から後輩へと受け継がれてきた県下に誇り得るものです。今度は君たち2・3年生がそれを引き継ぎ、発展させる番なのです。新入生をしっかりとリードして、山形中央高校のよき伝統をさらに積み上げて行ってほしいものです。

今年も頑張ろう！ 山形中央高生！！



普通科センター試験受験率 94.5%・5教科受験率 100%
国公立大学合格者 48名〔うち推薦入試合格者22名〕
民間企業は好調、公務員は今年も狭き門

今春卒業した平成30年度3年生の進路状況は下表の通りです。普通科91.4%、体育科79.0%の生徒が大学・短大・専修学校へ進学し、普通科3.7%、体育科20.9%の生徒が就職を決めました。

今回の入試で特筆すべきことは、普通科において在籍の実に**94.5%生徒がセンター試験を受験**し、しかも受験した生徒の**100%が5教科全てを受験**したことです。これは昨年度に続き高い割合であり、県内他校と比較してもトップレベルにあるものでした。センター試験受験に向けて最後まで学習をすることは、『高校での学びの集大成』として、『大学等での学びにつなげる学力保障』として非常に大切なことと考えます。また、受験に向けて『戦う集団』として一致団結した雰囲気も醸成されていたようです。このようなことから、今後も普通科においてはセンター試験を極力受験することが望ましいと考えております。

4年制大学：166名（卒業生数の68.0%）が4年制大学へ進学しています。国公立大学には**48名(体育2名を含む)**が合格を勝ちとり**46名**が進学しました。特に、推薦入試では**22名**もの合格者を出し、昨年度に続き多くの合格者を出すことができました。推薦入試・一般入試共に生徒の頑張りと保護者の方々の支えが実を結んだものであり、後輩達にとっても心強い結果となりました。

120名が進学した私立大学での学部傾向を見ますと、法・経済学部などの社会科学系や、全国的に人気が高い生活科学系に多くの進学者を出しています。

主な国公立大学進学先 山形大15名、県立保健医療大4名、米沢栄養大2名、福島大6名、新潟大8名

短期大学：近年、短期大学への志願者が減少傾向にありますが、**11名**が短期大学へ進学しました。多くが幼児教育を目指す私立短期大学への進学となっています。

看護医療系専門学校等・大学校等：男女を問わず人気の高い看護・医療系の専門学校を含め、専修・専門学校への進学者は**36名**（14.8%）です。看護医療系の主な進学先としては、国立病院機構山形病院附属看護学校、済生館高等看護学院、山形医療技術専門学校などに複数名が進学しました。

就職：民間企業へ**13名**、公務員に**10名**。公務員では全県的に厳しい状況の中で、山形県警、埼玉県警などに6名が合格しました。また、少し上向きの就職戦線となっていますが、民間企業へ13名が就職し、希望者の就業率は100%となっています。

本校進路指導部としては、自らの進路希望を達成した卒業生に拍手を送ると共に、さらなる中央高生の進路実現のために邁進していきたくて思っております。つきましては、本校進路指導に対する保護者の皆様、関係各位の皆様の今後益々のご理解、ご協力をお願いしたいと存じます。

（進路指導部長 芦野 浩二）

		大学			短期大学			専門学校等				就職			他		合計 (卒業生数)
		国 立	私 立	計	国 立	私 立	計	看護 医療 系	その 他 専門	大 学 校 等	計	民 間	公 務 員	計	予 備 校	そ の 他	
普通科	男子	26	45	71	0	0	0	2	4	1	7	0	2	2	6	1	87
	女子	18	30	48	1	8	9	6	7	1	14	3	1	4	1	0	76
	計	44	75	119	1	8	9	8	11	2	21	3	3	6	7	1	163
体育科	男子	2	35	37	0	1	1	6	5	1	12	9	3	12	0	0	62
	女子	0	10	10	0	1	1	2	1	0	3	1	4	5	0	0	19
	計	2	45	47	0	2	2	8	6	1	15	10	7	17	0	0	81
学年	男子	28	80	108	0	1	1	8	9	2	19	9	5	14	6	1	149
	女子	18	40	58	1	9	10	8	8	1	17	4	5	9	1	0	95
	計	46	120	166	1	10	11	16	17	3	36	13	10	23	7	1	244
	%	18.9	49.2	68.0	0.4	4.1	4.5	6.6	7.0	1.2	14.8	5.3	4.1	9.4	2.9	0.4	100